



10月21日

認知症にやさしいまちづくりを学ぶ

恵那文化センターで、認知症講演会「認知症でも笑顔のまま」が開催されました。若年性認知症の当事者の立場から、51歳で若年性認知症と診断された、愛知県名古屋市長の山田真由美さんが講演。山田さんは手を貸してもらいながら上着の袖を通す姿を実演するなどし、周りの存在がどれだけ大切かを熱弁しました。認知症の義母を12年にわたって介護した経験を持つ、愛知県豊明市在住の小菅もと子さんの講演もありました。

参加者は、認知症本人も家族も、周りの支援があることで、安心した生活が継続できることを学びました。



10月21日

防災アカデミーで防災の担い手育成

市消防防災センターで市防災アカデミーが始まりました。地域で防災の中心的な役割を担う「防災リーダー」を育成するもので、今年で9年目。3回にわたって講義や実習により防災活動に必要な知識や技術を身に付けます。修了者は防災士試験を受けることもできます。

今年の受講生は61人。中でも中学生が31人、高校生が4人参加し、関心の高さがうかがえました。初日となったこの日、地震の仕組みを学んだり、非常食を作ったり、グループごとに地図を使って危険箇所を把握したりと、受講生は熱心に学びました。



10月12日

貴重な刺しゅうの涅槃図を特別公開

岩村町の盛巖寺が所有する市指定文化財「釈迦涅槃像刺繍画軸」が、10月12日から18日まで特別公開されました。

本作は、江戸時代に制作された刺しゅうによる大型の涅槃図。刺しゅうの涅槃図は全国的に珍しく35例ほどしかありません。多彩で緻密な模様の刺しゅうが施されており、工芸技術の高さがうかがえます。

画面中央には右を下にして宝台に横たわる釈迦が描かれています。近藤昌弘住職は「これを見た人に、人の死の尊厳についてもう一度考えてもらえたら」と話しました。

10月23日には「刺繍仏涅槃図」として県重要文化財に指定されました。



9月27日

シニア世代の再就職を応援

恵那駅前にある恵那くらしビジネスサポートセンターで、シニアのための再就職応援セミナーが開催されました。

高齢者への就労支援拠点として、同センターに設けられた「シニアワークステーション」の事業として開催されたこのセミナー。この日は、働く意欲を持ち再就職を希望する60歳から77歳までの6人が参加し、生活設計や市の労働事情を学ぶことで、仕事探しにつなげていく第一歩を踏み出しました。

このセミナーは今後、11月22日(木)、12月13日(木)に開催されます。同センターで、随時申し込みを受け付けています。



10月22日

静寂の町家に琵琶の音が響き渡る

大井町の中山道ひし屋資料館で「秋月の宵筑前琵琶演奏会」が開催され、100人を超える来場者が琵琶の語りや音色に包まれました。

八百津町在住の琵琶奏者、田中旭泉さんを迎え、第17回となる同資料館の風物詩。毎年他ジャンルの演奏家などとの共演が見どころの一つで、この日は、恵那市出身のリコーダー演奏家、古山和男さんとの共演が披露されました。

「幕末の動乱を生きた人々」をテーマにした今回。西南戦争で敗れた西郷隆盛の最期を演奏するなど、美しい月明かりと町家の雰囲気の中、琵琶の音が響き渡りました。



10月21日

中山太鼓で地域を越えた文化交流

串原の中山神社例大祭で、県重要無形民俗文化財の中山太鼓が奉納されました。

天正2(1574)年、武田軍の美濃侵攻に際し迎え討った織田軍の武士たちが、太鼓を打ち鳴らして軍運を祈願したという由来が残る中山太鼓。この日は、6組の太鼓打ちはやし組が参加した他、名古屋市や豊田市、東京都や神奈川県、香川県からも参加がありました。毎年、距離を越えて互いの祭りに参加するなど交流が続いています。

地域や年齢、国籍の垣根を越え、太鼓をたたいて交流する参加者たち。その歓声と熱気で、会場一帯は盛り上がりました。

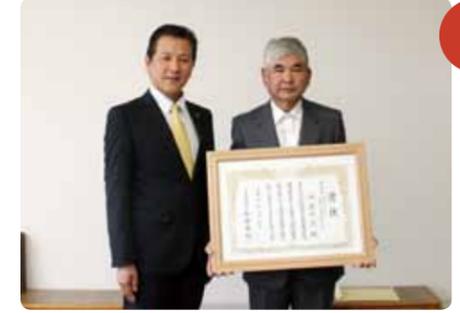


10月14日

自然と家と人との調和で建築大賞

市空き家バンクの物件で、移住を機に改築した古民家が7月末、(公社)日本建築家協会東海支部主催の第6回JIA東海住宅建築賞で、最高位の大賞を受賞しました。

笠置町毛呂窪にあるその古民家。暮らすのは昨年12月に親子3人で移住した高橋さん家族。夫の康幸さんは「この風景があってこの建物がある。まさに記憶遺産。残していこう、大切にしていこうと思う」と、妻の珠美さんは「人も自然もすてきなこの地域で、子育てができて幸せ」と新たな暮らしを喜びました。地区の神社の祭りに出掛け、2歳になる環太朗くんは「太鼓が好き」とほほ笑みしました。



10月2日

建具職人の所さんが厚生労働大臣賞

8月末にさいたま市で開催された第52回全国建具展示会で、建具職人の所正幸さん(東野)が厚生労働大臣賞を受賞し、小坂市長に受賞を報告しました。

所さんは、5年前の同展示会で文部科学大臣賞を受賞した実績の持ち主。今回は浮世絵師葛飾北斎の代表作を基に「富嶽三十六景神奈川沖波裏」をテーマとする飾り障子を出品し、15作品の中から2位に当たる厚生労働大臣賞に輝きました。

所さんは「4年かけて作り上げた。細かな作業は大変だった。次に作りたいと思っているものがあるので、さらに上を目指したい」と喜びと共に意欲をにじませました。